

## 水天宮御守(いつもじ・護符ごふ)

一一九〇年に水天宮をご創建された按察使局(あぜちのつぼね)伊勢より歴代宮司へ口伝にて伝わる御守です。

水天宮の御守は立春前、久留米水天宮の神職が七日七夜のお籠りを経て、立春当日の神水祈禱にて、筑後川よりご神水を戴きます。その後、ご神水にて墨をすり、版木に塗り奉製されます。

体調がすぐれない時に護符を飲むとご利益をいただける信仰が現在でも残っております。また、筑後地方では魚の骨がつまった時など幅広く用いられております。

御守の飲み方は先ずコップに水を用意し、五つの文字の真ん中の文字より指で千切って水に浮かべ、お願い事をしながら水と文字を一緒に頂いて下さい。順番が平仮名の「の」字を書くように頂いてください。一度にすべて飲む必要はございません。

